

GEOINT2018

参加報告

2018年5月3日



葛岡 成樹



COPYRIGHT © 2018 · USGIF

目次

概要	2
感想	2
主なプレゼンテーション・議論	2
(1) NGA	2
(2) 米国国家情報局副長官	2
(3) USGIF	2
(4) 小型衛星ワーキンググループ	2
展示	2
(1) 展示概要	2
(2) 新しい SAR の世代	3
(3) 人工知能時代の到来	3
ちよつと一言	3



概要

2018年4月22日から25日まで、米国フロリダ州タンパにおいて GEOINT シンポジウム 2018 が開催された。今年のテーマは”Driving Data to Decision and Action”であった。このシンポジウムは米国地理空間インテリジェンス財団(US Geospatial Intelligence Foundation: USGIF)が 2004 年から毎年主催している防衛・安全保障向けの地理空間インテリジェンス(GEOINT)に係る世界最大の会議・展示会である。

参加者は米国を中心として、防衛・安全保障分野における、地球観測(EO)衛星を含む地理空間インテリジェンス業務関連の官・民・学である。USGIF 担当者に確認したところ公式な参加者数は今後発表することだが、概数 4,000 人程度が参加したとのこと。日本からも、防衛・安全保障分野の EO 衛星関連者が 50 人を超える数参加した。また企業展示も 100,000 スクエアフィート(約 9,200m²)の会場に約 200 社が出展した。

感想

GEOINT に毎年出席していると、取り上げられる話題から米国の防衛・安全保障向け EO の政策・技術動向が良くわかる。昨年まで華々しく取り上げられていた小型衛星 SmallSat は、今年はメイン会場ではそれ自体が話題となることはなかった。むしろワーキンググループ内で標準化などが地道に議論されるなど、小型衛星は当然のこととして GEOINT に使われるようになったといえよう。

一方数年前から出てきた人工知能が今年の中心的话题であった。今年のテーマでも、EO 衛星のピクセルデータを意思決定やアクションにどうつなげるか、そのために人工知能による処理が必須という

ことである。人工知能の利用がメイン会場でのプレゼンテーション、展示それぞれで大きく取り上げられた。

主なプレゼンテーション・議論

(1) NGA

<<以下省略>>



NGA 長官

(2) 米国国家情報局副長官

<<以下省略>>



米国国家情報局副長官

(3) USGIF

<<以下省略>>



子供向け GEOINT 教育

(4) 小型衛星ワーキンググループ

<<以下省略>>

展示

(1) 展示概要

<<以下省略>>



展示

(2)新しい SAR の世代

<<以下省略>>



Commercial SAR
Networking Event

(3)人工知能時代の到来

<<以下省略>>

ちよつと言

フロリダ州のビジネスの中心地であるタンパは、マイアミなどのリゾート地でもなくオーランドのようなテーマパークはない。そのタンパの数少ない観光スポットがイーボーシティーである。GEOINT 会場の前から路面電車に乗って 10 分ほどでイーボーシティーに着くと、そこには歴史地区として古い建物が保存されている。この町は 19 世紀に葉巻製造業者によって設立され、キューバからの労働者で栄えたとのこと。レストラン・土産物屋と共に現在でも葉巻屋があつて葉巻の手巻きを見せている。



このイーボーシティーの名物がキューバサンドイッチ。まず形はちょっと長め

キューバサンドイッチ

で軽い食感のキューバブレッドにハムやチーズをはさみ、上下からしっかりプレスしつつ焼く。中のチーズが溶けて表面がカリカリとした食感はホットドッグやフランスパンのサンドイッチともまた違う。ローカルビアと組み合わせると、これがタンパの味である。

本報告書へのお問い合わせは：



株式会社 サテライト・ビジネス・ネットワーク

<http://sat-biznet.com>

葛岡 成樹

コンタクト：<https://sat-biznet.com/contact-us/>



ユーロコンサル日本事務所

<http://www.euroconsult-ec.com>

葛岡 成樹



付録 地球観測データの人工知能処理付加価値サービス会社の比較

<<以下省略>>

(葛岡作成)